

『生きることの意味』

島根県

出雲市立斐川東中学校 三年

須田 すだ あゆみ 愛結美

今回の講演会を通して、改めて命の大切さと、いつ何があるか、何が無くなってしまいか分らないというこわさを一番に感じました。一井さんのお話を聞く中で、自分の家族そして自分の将来を思い浮かべて考えました。もし自分の家族があんな目にあったら、もし将来、自分の子供がそんな目に合ったら、私はどうなってしまっただろう、と。亡くなってしまった家族への悲しさや辛さ、そして疑人への怒りやうらみ。それだけじゃたぶん、収まりきらないんじゃないかと思います。もちろん、一井さんご自身もそれ以上の感情を持たれたのだと思います。私だったら、生きていられないくらい、死にたいと思ってしまうくらい傷を負い、させつすずすと思えます。でも、そこで悲しみや辛さを乗りこえ、生きてこられたことが何よりもすごいと思えます。そして、私は一井さんがこれまで生きてきた人生の中でとても心に刺さり、印象深い言葉があります。それは、“この人達は死にたくて死んだわけではない。生きてたくても生きられない、でもその死んでしまった人達にとって自分の家族が自分のように死んでほしくない。一生懸命生きてほしい、それが私の恩返し”というメッセージです。生きてたくても生きることでできなかつた命。生きることでできる命は、一生懸命生きてほしいと望んでいるはずです。きつと、一井さんの亡くなってしまった息子さんもそう思われたはずです。その思いをきちんと受け止め、ここまで精一杯生きてこられたこと、向き合いたくも考えたくもない最悪の現実逃げずに戦ってこられた強い心は、一井さんのすごさであり、とても尊敬するものでした。

そして、何よりも今日学んだこと「生きることの大切さ」です。もちろん、一井さんの息子さん、あるいは娘さんのような事件を身近で感じたことはありません。そして、絶対にあってはならないことで、そう感じないことだと思えます。また、加害者がいなければ、被害者もいません。この世の中で加害者がいなくなれば私達の生活は平和なのです。でも、加害者自身も何かがきっかけで変な殺意をいだいたり、感じたりするのだと思います。そんな時、一井さんも言われたように、自分が今これをすれば、自分のことを愛して思ってくれている多くの人がどれだけ傷付いて、どれだけ辛い思いをするのか一度立ち止まってみる。自分にとっての大切な人が嫌な思いをすることは誰も望まないと思えます。自分のたった一つの一時の感情で起こした行動が、その後どれだけの人を傷付けてめいわくをかけるのか、誰でも考えることはできるはずです。この世の中にそういう思いが生まれれば、平和な暮らしをしていけるのだと思います。そして、殺人やいじめ、暴力はどんな理由やどんなうらみがあっても絶対に許されるものではありません。人間の命は、どれだけ願っても、どれだけ謝ってもどれだけ後悔しても一度なくなってしまうものは一生帰ってきません。

それだけの価値があり、大切なものなのです。これを受けて、私が今日の講座で一番心に残り、刺さったこと、それは、「生きることを頑張ってください。」普段この言葉を言われてもあまり感心を持つことはできないけれど、一井さんの体験やこれまでの思いを通して、よく考えたらとても意味深いもので、あたりまえではないのだと実感しました。生きていられることはとても幸せで特別なのです。この今日持つことができた様々な思い、私のこれからの人生で常に心のどこかに留めておくようにしたいです。